

次の(設例)を読んで、問(1)から(3)に答えなさい。

(設例)

1. Aは、多くの不動産を所有していたが、そのうちの一部を甲土地と乙土地に分筆したうえで、甲土地をBに売却することにした。
2. Aは、分筆登記手続をし、Bとの間で甲土地について売買契約を締結した。
3. Bは、甲の売買代金全額を支払い、Aから引渡しを受けて、AとBは甲土地の移転登記を申請した。
4. しかしながら、分筆登記手続の際に手違いが生じた結果、甲土地の名義はAに残ったままとなり、一方、B名義の登記は、所在しない土地の登記となっていたが、AもBもこのことに気がつかなかった。
5. 3年後、Aが死亡し、Aの唯一の相続人であるCが、Aを相続した。
6. Cは、Aより相続した土地の中に、固定資産税を払っているが所在がわからない土地があることに気づき、その土地を処分したいと考えた。
7. Cは、かねてよりA家に入入りし、Aの財産管理に関わっていたDに所在がわからない土地の処分について相談した。
8. Dが、現地調査をした結果、所在のわからない土地が甲土地であることが判明したが、DはCにこのことを告げなかった。
9. Dは、甲土地をBが現在利用していることを知り、Bに高く売りつけるつもりで自ら購入することにした。
10. Dは、甲土地の時価が6,000万円であることを知っていたが、Cが所在のわからない土地と思い込んでいることに乗じて、甲土地の売買代金を500万円とした。
11. Dは、甲土地についてCとの間で売買契約を締結し、代金全額の支払と引換えに、自己への移転登記を経由した。
12. Dは、万が一、甲土地が実在しなくても、売買代金の返還を請求しない旨の念書をCに差し入れた。
13. Dは、Bに甲土地の購入を持ちかけたところ拒絶されたため、事実9～12の事情を知らないEに、甲土地を3,000万円で転売し、Eへの移転登記を済ませた。

問(1)(配点:30点)

(設例)の事実1～4を前提として、次の問に答えなさい。

[問]

Bが、甲土地の利用を開始する前に、Fは何の権限もないまま無断で甲土地上に建築資材を持ち込み、甲土地を占拠していた。Bは、Fに対して、建築資材を撤去し、甲土

2019年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(民法)

---

地を明渡すことを請求したい。BのFに対する請求は認められるか。理由を示して答えなさい。

問(2) (配点: 40点)

(設例)の事実1~12を前提として、次の問に答えなさい。

[問]

Dが、Bに対して自己が甲土地の所有者であることを主張し土地の明渡しを請求した場合、このDの主張は認められるか。理由を示して答えなさい。

問(3) (配点: 30点)

(設例)の事実1~13を前提として、Eは、甲土地の所有権を取得することができるかについて、理由を示して答えなさい。